

ベルマーク新聞 2月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

10年かけて小学校にドラムセット寄贈

千葉県柏市のジャズミュージシャン



千葉県柏市に生まれ育ち、今も市内を中心に活動中のジャズミュージシャンが10年かけてベルマークを集め、地元の小学校にドラムセットを贈りました。

このミュージシャンはテナーサクソ奏者の尾崎朝子(ともこ)さん。寄贈先は、柏市立酒井根東小学校(櫻村雅子校長、児童495人)です。

柏市は吹奏楽が盛んです。尾崎さんも小学校で吹奏楽部に入り、音楽大学でジャズを専攻しました。卒業後は柏市に戻り2009年にバンドを結成。同時に、学生時代から抱いていた「ドラムをきっかけに、子どもたちに音楽の楽しさや面白さを伝えたい」との思いを実現したいと考え、ベルマークを使うことを着想。市内の生涯学習施設「さわやかちば県民プラザ」内にある県体験活動ボランティア活動支援センターの協力を得てマーク収集を始めました。仕分け・集計は県民プラザを介して高校生ボランティアに手伝ってもらったなどしました。

そして昨年、貯まったベルマークは15万9194点に達しました。尾崎さんは

寄贈先を決めるため、市内の学校に「応募用紙」を送って希望校を募り、抽選で酒井根東小への寄贈が決まりました。

1月20日、酒井根東小の音楽室で贈呈式がありました。4年から6年までの約60人の吹奏楽部員が集合し、真新しい



ドラムセットと対面。椅子やペダル、スタンド1脚は、尾崎さんが回収活動をしている不要楽器の中から揃えました。

式では、尾崎さんが「子どもたちが音楽に触れる機会を、という思いがようやく10年たって形になりました」と挨拶。続いて尾崎さんのバンドのドラマー、木下晋之介さんによる模範演奏とレッスンがありました。木下さんは「僕は、小学校の音楽の授業でドラムに触った時の感

動が忘れられず、ドラマーになりました」と明かしました。

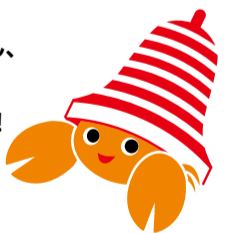
子どもたちを代表して、パーカッションのパートリーダー、平川結和(ゆな)さん(6年)が「今日は私たちのためにドラムを届けて下さりありがとうございます。これから楽しんでドラム練習をして、大切にしていきたいと思います」とお礼の言葉を述べました。吹奏楽部顧問の戸塚千穂先生は「楽しいことから始めるのが大事だと、勉強になりました。これをきっかけに子どもたちに浸透させていきたいです」。式を見学していた櫻村校長は「子どもたちが臆することなく自分の気持ちを出して嬉しくなりました。品物だけでなく、夢をいただきました」と感謝を語りました。

尾崎さんは「10年は長かったです、周りの人たちが根気よくサポートして下さいました」と話しました。今後も演奏活動の中で子どもたちが楽器に触れる機会を増やしていくとしています。また県民プラザではベルマーク収集活動を今後も続けていくそうです。



①ドラムセットと一緒にみんなで「イエイ！」
②ドラムセットと記念撮影
③レッスンにみな真剣な表情で取り組みます
④尾崎朝子さん

酒井根東小のみなさん、
ドラム演奏を
楽しんでくださいね!



「東北の子どもたちのために」マーク寄贈

ファミリーマートが3県の10小学校に

ファミリーマート(ベルマーク番号23)は、全国の店舗などで集めたベルマーク約21万点を、東日本大震災の被災地、岩手・宮城・福島各県の計10小学校に寄贈しました。震災の起きた2011年以降、ファミリーマートは被災地の学校にベルマークを贈る活動を続けています。寄贈先のひとつ、福島県の広野小には12月18日、ファミリーマートいわき営業所スーパーバイザーの大矢栄作さん、Jヴィレッジ前店の齋藤健一店長が訪れ、井戸

川浩校長にベルマークを手渡しました。ファミリーマートでは、販売しているおむすび全品にベルマークを付け、店頭でベルマーク回収箱を設置しています。



キリンビバレッジが財団に

協賛会社のキリンビバレッジ(ベルマーク番号54)東北地区本部は、昨年夏に東北6県で実施した「ベルマークを集めて!東北の元気を応援キャンペーン」で集まったベルマークを1月23日、ベルマーク財団に寄贈しました。合計4万7441点のマークが寄せられたそうです。

東北地区本部長の谷井光一さんが目録を手渡し、営業企画部営業企画担当の馬場徹司さんは現在実施中の第2弾のキャンペーンを説明して「第2弾も頑張りま

す」と話しました。財団の高木文哉常務理事は「ベルマーク運動への協力ありがとうございます、東北の子どもたちのために役立てます」と感謝を伝えました。



ベルマーク便り コンクール



2019年度ベルマーク便りコンクールは過去5年で最多の115校からの応募があり、優秀賞10校、佳作・特別賞各6校が選ばれました。入賞校のうち8校を訪問し、日ごろの活動ぶりや、子どもたちに向けての思いなどを伺いました。

入賞校を訪ねて

優秀賞 葉山町立葉山小学校

神奈川県葉山町にある町立葉山小学校(富樫俊夫校長・児童684人)が初めての応募で優秀賞を受賞しました。ベルマーク便り「ベルまま通信」を作成しているのは、PTA厚生委員長の佐藤香さんです。



副委員長の柳下あゆみさん、西尾智子さんと一緒に力を合わせて活動しています。

「ベルまま通信」は、すべて手書き。「読む立場になったときに、目につく手紙って何だろう」と考えたからといいます。太字と細字を使い分け、ベルマークファミリーのイラストを上手く活用し、情報を的確に伝えているのが特徴です。「お便りを書いた経験なんて全くなかった」という佐藤さんですが、書いているうちに楽しくなり、「自分の才能がどんどん発揮された」と笑います。

ベルマークは年4回、仕分け・集計作業します。厚生委員会は正副委員長しか

いないため、ボランティアが頼り。多いときは20人ほど集まるそうです。回収袋は児童に自作してもらいます。

そのほか活動は多岐にわたります。ダンボールで自作した回収箱を校内に置き、立体的なポスターをあちこちに貼り、土曜参観日に「ベルマーク商品展示コーナー」を設け、子どもたちへの周知を目的に「ベルマーク川柳」を募集し……。学校も、3年生が購入するリコーダーのマークを回収するなど協力的です。

富樫校長は「皆さん常に『学校にとって何が必要ですか』と支援の手を差し伸べてくれるので、本当に有り難いです」と感謝します。

保護者のベルマーク活動が盛り上がっているのを見た先生から「ぜひ児童にも手伝わせてもらえませんか」との提案もあったそうで、同校のベルマーク活動は今後も発展していきそうです。



佳作 札幌市立山の手南小学校

札幌市立山の手南小学校(山本豊校長・児童448人)では、保護者によるボランティア「ベルっきー's」が活動し、お便りの「Let'sベルっきー's」を発行しています。代表は前鼻久美子さん、お便りを作成しているのは書記の桑島純枝さんです。学校側の担当は品田亜希江先生で、ボランティアの皆さんとの間をつなぐ役割を担っています。

桑島さんは「感謝の気持ちを載せることや、文字ばかり書いてスルーされないようにすること、すっきりしたレイアウトを意識すること」を心がけています。

4月19日に配布された、今年度第1号に書かれていたのは「存続の危機」という文字。目立つように太字で、さらに下線が引いてありました。

山の手南小は2017年度、北海道の参加校1291校のうち集票点数33位という実績をあげましたが、翌年度は「集計しきれずたくさんのベルマークが残ってし



まった」そうで、その切実な思いが綴られていました。あえて危機感を全面に出した異例のお便りでしたが、その後「私でもよかったら」と声をかけてくれる保護者が出てきました。

結果的に、ボランティアのメンバーは26人に増えました。今年はカートリッジ類の集計や整理袋の記入まで手が回るようになったそうです。毎回強制ではなく、参加できるタイミングで作業してもらっています。

ボランティアは毎年新しく登録するため、前鼻さんは「来年もたくさんの方に参加していただけたら嬉しい」と願っています。また、桑島さんは「学校のことを知ることができるし、子どもたちの様子も見られる。お母さんたちとしゃべりながら交流したり、先生とも顔を合わせられたり……。ボランティアっていいなと思います。もっとみんなやったらいいのにな」と魅力を語ってくれました。

優秀賞 聖ミカエル幼稚園

北海道札幌市にある聖ミカエル幼稚園(園児87人)のお便り「Bellmark News」を作成しているのは、「ミカエル幼稚園父母の会」会長の木村奈津恵さん。役員メンバーは、副会長の横山留奈さんと木村晴子さん、会計の遠藤梢さん、会計監



査の中川亜美さんと打矢優紀さん、記録の森優子さんです。

年2回、回収袋を集めた後、役員以外の保護者も集まって作業をします。その名は「ベルマーク茶話会」。お便りには茶話会の様子も掲載し、皆さんに感謝の気持ちを伝えました。

お便りを通して、「『ベルマーク活動って楽しい』ということをお便りに伝えてほしい」と考えており、それがより伝わるように写真を多く載せている点がアピールポイントです。

6月には、さらに活動を盛り上げるため、ベルマークをテーマにしたペー

パートを子どもたちに披露しました。伝えなかったのは、ベルマークが困っているおともだちを助けることのできる「魔法のマーク」であること。それを証明するかのよう、同園は11月、台風・大雨被害被災校のための友愛援助に寄付し、「魔法のマーク」であることを実証してくれました。ペーパーパートは保護者に対しても「ベルマークは必ず我が子に還元される」ことを伝える狙いがあります。

そのような活動ぶりを見て、渡部良子園長は「何年もかけてやっと集めていたような点数を、あっという間に集めてくださった」と驚いたそうです。

「みんなが楽しい『ミカエルライフ』を送れるようにしたい」という気持ちを原動力に、フルタイムで働きつつ、パワフルに活動してきた木村さん。「役員の方の協力、優しい先生方に恵まれて活動できています」と、感謝の気持ちを大切にしています。木村さんとお話をしていると、その優しいお人柄が伝わってきました。



佳作 堺市立登美丘東幼稚園

ベルマーク運動への参加は1983年。しかし少子化などの影響で園児が減り、「点数を集めるのが大変になったからか、4年前に就任したときは、ベルマーク活動は全く行われていませんでした」と平井純子園長。

そんなベルマーク活動が復活したのは



2018年度。立ち上げたのはPTAベルマーク委員の楠木恭子さんです。近所の市立登美丘西小学校でベルマーク活動の経験があり、「どうやればいいのか知っていた。ベルマークなら家でもできるし、子どもたちに還元できると思ったから」。

すると、いきなり5月にとても多くのマークが寄せられ、びっくりしたそうです。「昔のクセで集めていたというおじいちゃんやおばあちゃんが、園の活動再開を知って大量に出してくれました」。運動が止まっていた間もマークを貯めていたのです。復活初年度に集まったマー

クは、合計1万点を超えました。

お便りは「ベルマーク点数のお知らせ」と題して毎月発行。すべて手書きです。「パソコンで作ったお知らせは、よく読まない人も多い。手書きなら逆に目を引くと思って」と楠木さん。毎月の集計結果の数字を大きく載せ、マークの会社別ランキングや、号によっては多く持ってきてくれた園児の名前とお礼、ベルマーク運動の仕組みなどが書かれています。イラストや商品の写真も豊富です。一人一人の顔の見える、とても温かみのある紙面です。

園児たちのベルマークへの関心も高まってきているよう。ベルマーク委員の江藤由希子さんは「上の子が通う小学校でもベルマークを集めているので、どちらに持っていかで取り合いになっています」と言います。買い物に行ってもベルマーク商品を探して「これに付いている」と教えてくれるそうです。



入賞校を訪ねて

優秀賞には3万円、佳作と特別賞には1万円をお送りしました。惜しくも受賞を逃した学校にも、参加賞として2000円の図書カードをお送りしています。コンクールは来年度も実施します。いまから準備して、ふるってご応募ください。



ベルマーク便り コンクール

優秀賞 札幌市立あいの里東小学校

「子どもたちのここにこした笑顔、めんこいだよ～」

こう話すのは札幌市立あいの里東小学校(椛澤裕子校長・児童481人) PTA厚生部ベルマーク班長の高橋宗子(たかはし・ひろこ)さんです。お便り「Hello!ベルマーク」が2年連続で優秀賞に選ばれました。

「ベルマークの仕事をたまたま割り当てられた」昨年度、運動説明会に参加して、ベルマークが国内外の困っている子どもたちの支援につながると初めて知り



ました。「どうせなら、ちゃんとやってみよう」と、まずはお便りの改革から。タイトルとレイアウトを変え、「児童がすぐに親に渡すのではなく、自分で読んでみようと思えるお便り」を目指しました。

さらに、学期の初めや終わりに学校玄関にカラフルなブースを設けて「ベル



マークウィーク」を開催。ベルマークの話題も扱うインスタグラムも始めました。今年度の初めには、新入生一人一人に渡す、ランドセル形のマーク収集箱も用意。6月にあった運動説明会では、今度は体験発表者として登壇しました。

来年3月、お子さんがあいの里東小を卒業すると、高橋さんのベルマーク班長の任期は満了となります。「来年の委員さんに負担をかけるわけにはいかない」と、お便りに関しては児童のマンガイラストクラブの協力を得るようにするなど準備を進めているそうです。

また今年度は、マークのお礼として児童に手渡ししおり作りを手伝う「ベルボラ」さんを募集。すると27人も申し込んでくれました。「何よりも子どもたちが喜んでくれること、関心を持ってくれることが一番」との高橋さんの思いが、周りにも広がっていったようです。

優秀賞 堺市立登美丘西小学校

堺市東区にある市立登美丘西小学校(大林千登勢校長、児童628人)は昨年度、堺市内の年間集票で1位に輝くなどランキング上位の常連校です。ベルマーク便りコンクールも今回で5年連続の受賞、うち4回が優秀賞でした。



「ベルマークに力を入れ始めた数年前に作られた『流れ』に乗って活動しています」とベルマークを担当している文化委員長の出田さん。学校、保護者、児童、地域の協力体制がしっかり出来ていて、それが順調に稼働しているのだそうです。

お便りの担当は松原さん。B4用紙を横いっぱいを使い、手書きの文字とかわいらしいイラストを配置します。「季節にあったものを載せるよう心掛けています。それと、前年の号とかぶらないように」。イラストは塗りつぶし部分を少なくし、「ぬりえ」として楽しめるよう工夫

されています。実際に色をぬって遊んでいる子どもの動画を送ってくれた方もいたそうで、とても人気です。

お便り伝統の企画は「テトラパック対決」。「登西のみんな」vs「地域の方、先生方」または「1、3、5年」vs「2、4、6年」など、集めた量の勝敗を掲載して興味を誘う工夫です。こうしたPR活動が実を結び、日本テトラパックの実施する「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」キャンペーンで2年連続受賞校に選ばれました。

今のPTAには「ベルマーク好き」が多く揃っているそうで、例えば出田さんや会計の馬場さんは「ベルマークの細かい作



業が好き」と、時間を見つけては自宅で作業もしているそうです。こうした人の輪が繋がり、回っていくことで、子どもたちのための活動も大きく広がっていくのだと、改めて思いました。

特別賞 長浜市立長浜小学校

滋賀県で最初に作られた、歴史ある小学校です。「明治4(1871)年、滋賀県第一小学校として開校しました」と杉本義明校長。現在855人の児童が学んでいます。ベルマーク運動でも輝かしい歴史が。これまでに集めたマークは累計860万点で滋賀県ではダントツのトップ、昨年度の集票数も県内1位でした。

PTA厚生委員会(24人)が月1回マークを会社別に仕分け、集計は委員長の大間久美子さん、副委員長の野村晃子さんと井上文江さんの3人で主に担当しています。仕分け作業には公募ボランティアも参加します。回収箱は地域の公民館などにも置いていますが、その分は被災校への寄付に回します。学校の昇降口にある回収箱も、自校用と被災校に分けています。

長浜小にはオリジナルのベルマークキャラクターがいます。2009年に児童

から募集して誕生した「べるぼちゃん」。かわいいベルの形で、手にはさみとベルマークが。このキャラクターを使ったカラフルなワッペンを、運動会でPTA本部役員全員が着用してベルマークをアピールしたそうです。「仕事で参観日に来れない人も、運動会なら来るのでは」と大間さん。

べるぼちゃんは、ベルマークの活動を伝える厚生委員会だよりも毎回登場します。大間さんが作るおたよりは、運動の仕組みや収集の方法、集まった点数の内訳や購入品などについて、毎回テーマを絞って取り上げています。図版も多く使い、とても見やすく、分かりやすくまとめられています。

集めた点数で、昨年度はドッジボールやメッシュベストなどを購入しました。これからの活動について大間さんは「こんなに活発な学校は貴重なので、今後も続けていけたら。そのためにはアピールしていくのが大事」と話してくれました。べるぼちゃんワッペンの出番も増えることでしょう。



特別賞 北島町立北島南小学校

初の応募で特別賞に選ばれた北島南小学校(橋本隆校長、児童444人)のベルマーク活動は、PTAではなく、ベルマークボランティアが担っています。メンバーは、代表の北池愛さんと、岡田由美子さんの2人だけ。5年半前にボランティ



アを立ち上げたときは小学生だったお子さんは、すでに高校生になっていますが、今も小学校に通ってコツコツと活動を続けています。

北島南小は2010年からベルマーク運動に参加しましたが、実質的に活動を始めたのは、北池さんが岡田さんら同学年のお母さん5人とベルマークボランティアを結成した2014年からでした。お子さんたちが卒業した2016年に他のメンバーは抜けましたが、北池さんと岡田さんは「できる範囲でやってみよう」と活動を継続。結果的にその年度で8万5千余点を集め、県内集票点数1位に輝きまし

た。翌年度に徳島市であったベルマーク説明会ではこうした体験を発表しました。

お便りを作っているのは北池さん。「1人でも多くベルマークを再認識してほしい」との思いから、数々のお便りに紛れないよう手書きにしました。北池さんは中学生の時に漫画家を目指していたそうで、細かく描き込まれたイラストが可愛らしく、太いマジックや細いペンを巧みに使い分けた技も光ります。「まさか賞に入るとは思いませんでした」と北池さんは言いますが、岡田さんは「絵が上手い目を引きまます。難しい言葉遣いもなく、子どもにも読みやすい」と話します。

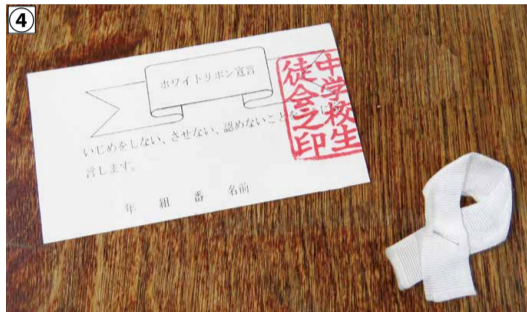
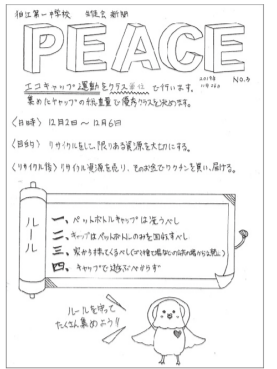
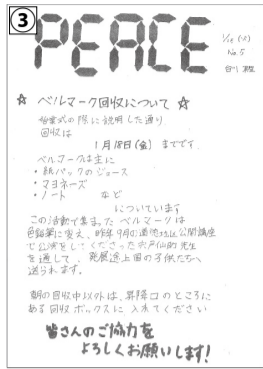
子どもたちの意欲を引き出そうと、職員室前の壁には手作りのベルマーク集計表を貼り出しています。年度ごとの累計点数の棒グラフが目標の数字を大きく超えて長く伸びているのが印象的でした。

2人にこれからの活動を聞くと「無理なく、楽しく、長く続けることが大切」と話してくれました。



カンボジアに色鉛筆を送ろう

東京・狛江市立狛江第一中が活動復活



- ①左から白川真聖さん、吉川咲希さん、中間香歌さん、大内陽果さん、河埜亮一先生
- ②職員室前のベルマークボックス。目標達成後も、マークを入れてくれる人がいる
- ③生徒会新聞「PEACE」
- ④ホワイトリボンと運動の宣言書

東京都狛江市の市立狛江第一中学校(吉田知弘校長、生徒392人)が、集めたベルマークで色鉛筆12缶を購入しました。カンボジアの子どもたちを支援するため、長らくお休みしていたベルマーク活動を、生徒会役員が復活させました。

きっかけは2018年秋の「道徳授業地区公開講座」。カンボジアなど発展途上国の子どもたちの厳しい現状を学びました。その際、支援活動をしている講師に「ベルマークで備品を買って送るという方法もある」とヒントをもらいました。

その時点で同校のベルマーク活動は止まっており、ベルマーク預金も2011年に東日本大震災の友愛援助で寄付して使い切っていました。職員室前に回収箱がありましたが、マークが貯まったまま放置された状態でした。

そこで、生徒会役員が中心になって収集活動を再開しました。当時のメンバーは会長の白川真聖さん、副会長の松本桃華さん、吉川咲希さん、庶務の大内陽果さん、中間香歌さんの5人。新しい回収箱を昇降口に置き、朝礼や生徒会新聞で

生徒に協力を呼びかけました。仕分け・集計は先生も協力しました。

その結果、元々貯まっていたマークと合わせて10,584点になりました。購入品として色鉛筆を選んだのは「木で出来ている色鉛筆なら使えなくなったとき燃やすことができるから」だそうです。地区公開講座の講師を務めた先生を通してカンボジアの子どもたちに届けます。

狛江一中の生徒会活動は、エコキャップの収集や緑の羽根募金、地域の防災訓練への参加など多岐にわたります。中で

も特筆すべきは平成23年から始まったホワイトリボン運動。「いじめをしない、させない、認めない」というスローガンを掲げ、宣言書を書き、ブレッザやバッグにリボンをつける運動です。模範的で優れた取り組みとして都から2回も表彰を受けています。

今回、カンボジアに色鉛筆を贈るという大きな目標を達成した皆さん。今後について質問すると、「今度は自分たちの学校のためにやってみよう」「私なら冷水機が欲しいなあ」と話しました。

ベルマークを集めて教育支援をしよう

高松市に協議会が発足

香川県高松市中部の多肥(たひ)地区に「ベルマークを集めて教育支援をしよう協議会」が結成され、活動を始めました。会長の森英樹さんと理事長の松野安伸さんに話を聞きました。

森さんは市立多肥幼稚園の園長。過去に教員として勤めた11の学校全てがベルマーク運動に参加していたそうです。少子化や共働きが進み、PTA活動やベルマーク運動にも影響が出る中、「組織をつくって運動の活性化につなげていきたい」と考えました。

松野さんはクラレトレーディング(ベルマーク番号30)の製品を販売する香川菅公学生服の社長。一般社団法人「教育コミュニティ」を作って教育支援活動も展開しています。森さんは旧知だった松野さんに協力を要請。

さらに自治会などにも参加を呼びかけ、昨秋に協議会を立ち上げました。

2人は中四国地方を中心に店舗展開しているスーパーのハローズにも声をかけ、同社が店で集めたマークの一部を寄贈してもらいました。そこで「地域の高齢者の力をお借りしたい」とボランティアを募集。70～80代の約30人が仕分け・集計作業をしました。みんな初めての作業で、多肥幼稚園PTAのベルマーク部員が先生役として加わりました。2回にわたって作業した結果、マークは1万9621点ありました。

協議会は今後、ハローズとの協力関係を続け、活動を通じて集めたマークは、小規模校や被災校の支援に使われる予定です。



右から「ベルマークを集めて教育支援をしよう協議会」の森英樹会長、松野安伸理事長

「少しでも役に立てば」90歳が仕分け

「ベルボラ愛媛」の活動

愛媛県でボランティアとしてベルマークを集め、被災校や県内の特別支援学校へ寄贈しているグループ「ベルボラ愛媛」。メンバーは中村真治さん、清水政子さん、和田いづみさんの3人ですが、仕分け・集計の7割ほどを担っているのが清水さん。1929(昭和4)年生まれの90歳です。

中村さんが会社別に分けて届けたマークを、清水さんはハサミで整え、慣れた手つきで点数ごとに仕切りの入った箱へ仕分けしていきます。小さなマークは拡大鏡で点数を確認します。仕分けた後は「ベルボラ愛媛」特製の台紙に両面テープで貼っていきます。

「朝5時半に起き、掃除と洗濯の後、すぐに作業に入

ります」と清水さん。マークがあればとことん続けるそうで、多い時には1日1500枚ほど仕分けします。作業は面白く、やればやるほど頑張れるそう。「少しでも役に立てたらええなあ、という思いで作業しています。本当に元気のもと。健康でいられる間は続けたいです」

「ベルボラ愛媛」は2008年に活動を始めました。「子どもたちのためにマークを捨てないで！」を合言葉に、市内の商店街や自治体の窓口などに回収箱を置かせてもらい、マークを集めています。西日本豪雨で地元の愛媛県が被災した際は、被害の大きかった大洲市と西予市の保育所に計50万点余を寄贈しました。活動開始以来の寄贈累計は約200万点になるそうです。



マークの仕分け作業をする清水政子さん

阪神・淡路大震災25年、自分の身を守るには…

兵庫・洲本市立広石小で理科実験教室

ベルマーク財団の「理科実験教室」が1月20日、兵庫県の淡路島西部にある洲本市立広石小学校（作靖幸=つくり・やすゆき=校長）で開かれました。財団のへき地校支援事業のひとつで、講師はおなじみDr.ナダレンジャーこと国立研究開発法人・防災科学技術研究所の納口恭明(のうぐち・やすあき)さんと助手のナダレンコ、罇優子(もたい・ゆうこ)さんです。



午前10時半、全校児童と教師らが体育館に集まる中、金髪のカツラと紙の3Dメガネ、地下足袋の怪しげなスタイルの納口さんと、ピンク色のアフロヘアの罇さんが登場しました。まずは「突風マシン」を使い、子どもたちに向けて突風を発射していきます。

「おもしろいでしょう。でも、このマシンが体育館ぐらいの大きさだったらどうでしょう」「自然災害は、本当はこわいもの。でも、小さくしたらこわくない。おもちゃみたいに感じるんです」

雪崩を疑似体験できる「ナダレンジャー0号」、地盤の

液状化現象をペットボトルで再現する「エッキー」、地震での揺れを知るための「ゆらゆら3兄弟」と、様々な装置を使って実験は続きます。最後に発砲スチロール製のブロックを車輪付き板に高く積み上げ、どれぐらいの揺れで倒れるか観察します。誕生日が1月の子ども6人がブロックの両側に頭を抱えてうずくまり、納口さんが台を少しずつ動かしていくと、ブロックが崩れ落ちました。「ワー！！」。悲鳴に似た声が上がりました。

児童会長の濱田小雪(はまだ・こゆき)さん(6年)は「いろいろな実験で楽しい勉強ができました。これから災害のことを考えていきたいと思います」と感謝を述べました。教頭の小林恭子(こばやし・きょうこ)先生は「阪神・淡路大震災から25年。自然災害は本当にこわいです。自分の命は自分で守る。きょうの実験でたくさん学んだことを、これからの生活に生かしてください」と話しました。

1995年の阪神・淡路大震災で洲本市は震度6を観測し、全壊の住家は合併前の五色町と合わせて200棟余に上りました。広石小ではその翌年から毎年1月17日に避難訓練などを続けています。今回の理科実験教室はその一環として開かれました。



④「突風マシン」で風に当たると子どもたちは大はしゃぎ
⑤ボトルを指ではじくと丸ピンが砂の中から浮き上がった

「セミの声に励まされ、感謝」

ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト2019

小学生を対象にした「ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト2019」の受賞者が決まりました。前回は上回る4万130通の応募があり、審査員長のジャーナリスト池上彰さんら5人の審査員による最終審査で、計21人が最優秀作品賞、35人が審査員特別賞、7校が学校・団体賞に選ばれました。

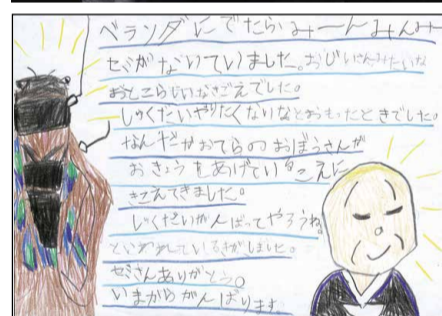
そのうち、関東1ブロック(東京都・神奈川県)低学年の部で最優秀作品賞に輝いたのは、海老名市立東柏ケ谷小学校1年の佐々木悠真さん。宿題をやりたくないと思った時に、ベランダから聞こえたミンミンゼミの「おじいさんみたいなおとこらしい」鳴き声。それをお坊さんのお経の声に例え、励ましの言葉に聞こえたとして、セミへの感謝と自らの意欲を手紙につづりました。

佐々木悠真さんへの表彰は1月28日にあり、主催する

協賛会社のファミリーマート(ベルマーク番号23)の伊藤聡神奈川ディストリクト部長が「読んでいる私も、仕事を頑張らなきゃいけないと思いました」とお祝いの言葉を述べ、表彰状などを手渡しました。

続いて、手紙への「お返事」が披露されました。なんとセミからのもの。「どうやら、ゆうまくんに、このおもいがつたわったみたいだね」。母の明日香さんが作り、父の卓さんが代読しました。小学校の担任、齋藤美千代先生からもお返事が。「生きているものみんなが悠真さんの応援団です。また色々なことにチャレンジして下さい」。祖母の曾根里美さんが読み上げました。

実は、悠真さんの兄の秀虎さん(海老名市立柏ケ谷中学校1年)も、小2のときにこのコンテストで受賞したことがあり、これでうれしい兄弟受賞となりました。



⑥佐々木悠真さんと一緒に、後列左から祖母の曾根里美さん、父の卓さん、兄の秀虎さん、母の明日香さん
⑦悠真さんの作品

大分・別府市立東山小中から感謝メッセージ

大分県別府市の市立東山小中学校(赤峰三代子校長、児童31人・生徒16人)から、ベルマーク財団のへき地校支援への感謝メッセージと写真が届きました。

阿蘇・くじゅう国立公園内にある同校は、市の小規模特認校に指定されていて、ほとんどの子どもたちは校区外から、保護者の車やスクールバス、路線バスで通っています。

今回の支援では、一輪車、折りたたみ式発表ボード、高圧洗浄機、ソフトドッジなどを買いました。一輪車は今まで古

いものを修理して使っていましたが、3種類のタイヤサイズ各1台ずつを更新しました。写真は昨年9月、幼小中・地域の合同運動会で小学生全員が行った一輪車演技の様子です。練習した技を立派に披露することができたそうです。



エンカレッジ・テクノロジー(株)の社員がマーク寄贈&見学

エンカレッジ・テクノロジー株式会社(本社・東京都中央区)の社員4名が、1月22日に財団事務所を見学しました。内部監査室長の田村潤さん、経営管理部の花岡伸子さん、事業推進部の前橋実可子さん、研究開発部の岸本彩さんです。



同社は2002年創立。セキュリティソフトウェアの開発・販売をしており、昨年3月に東証一部へ上場しました。そのタイミングで、社会貢献活動に関心を持ち始めたそうです。「社を挙げてベルマーク収集に取り組むことを社員に周知したい」とのことで、見学の様子は同社ホームページにも掲載されています。

昨年12月からベルマーク収集を始めた同社。その最初の回収分を財団に寄贈してくれました。インクカートリッジ850点分、トナーカートリッジ100点分、そして711.5点のベルマーク。ありがとうございました。

大台達成校

1月	校名	枚数
永明小	長野県茅野市	10,001,964
中野第一小	東京都中野区	8,023,643
古高松小	高松市	7,005,989
東小	愛知県津島市	6,011,978
勝山小	山口県下関市	6,017,331
三城小	長崎県大村市	6,032,005
小池小	東京都大田区	5,012,589
墨俣小	岐阜県大垣市	5,021,171
吹上小	和歌山市	5,011,142
金子小	愛媛県新居浜市	5,001,332
松岩小	宮城県気仙沼市	4,095,925
峯小	横浜市保土ヶ谷区	4,013,210
今宿小	神奈川県茅ヶ崎市	4,010,401
王寺小	奈良県王寺町	4,013,266
大野小	長崎県佐世保市	4,009,869
与野八幡小	さいたま市中央区	3,006,307
上鶴間小	相模原市南区	3,011,428
高田小	千葉県柏市	2,012,410
大綱中	横浜市港北区	2,004,521
上牧小	大阪府高槻市	2,003,961
館小	仙台市泉区	1,007,040
三ツ境養護学校		
	横浜市瀬谷区	1,004,761
大庭小	松江市	1,002,774
伴南小	広島市安佐南区	1,010,551
福木中	広島市東区	1,026,851
出水中	熊本市中央区	1,074,235



読んでみたい本 児童文学評論家・藤田のぼる

絵本

『さくらの谷』

(富安陽子・文、松成真理子・絵、偕成社)

季節はまだ肌寒い3月、林の中の尾根道を歩いていた「わたし」の前に、ふいに深い谷が姿を現します。そして谷をのぞいたわたしの目の下に、そこだけ満開の桜が広がっています。何やら聞こえてくる歌声に魅かれるように谷に降りていったわたしが見たのは、車座になって花見をしている鬼たちでした。いつのまにかわたしも鬼たちにまざり、やがて鬼ごっこが始まるのですが、鬼になって追いかけるわたしの中で、なぜか鬼たちが亡くなったおばあちゃんやお父さんの面影と重なってくるのです。桜や鬼といったイメージを駆使しながら、読者の心の奥に訴えてくる見事な絵本です。(中学年から、1300円+税)



で、「瞬間の芸術」という言葉を思い出しました。(低学年から、1500円+税)

『てへかへねかめ おふろでね』

(宮川ひろ・作、ましませつこ・絵、童心社)

『先生のつうしんぼ』などで親しまれた宮川ひろさんが亡くなられて一年余り、その宮川さんの新作絵本です。お風呂で温まる時の唱え言葉というのは色々で、中には家族のオリジナルもあると思いますが、宮川さんは「てへかへねかめ」で始まる唱え言葉を信州出身の方から聞き、いつか絵本にしたいと考えていました。そして病床のベッドで原稿を書かれていたということです。おじいちゃんと孫が三回繰り返す暗号のような楽しい唱え言葉から、宮川さんが子どもたちに注いできた限りない愛情を感じ取ることができま。す。(低学年以上向き、1300円+税)



子どもの日常の中のできごとをドラマにしていけるのはこの作者の独壇場ですが、読者には二人がいつのまにか友だちのように思えてくるに違いありません。(低学年向き、1300円+税)

『災害救助犬じゃがいも 11回の挑戦』

(山口常夫・文、岩崎書店)

災害救助犬は土砂やがれきに埋もれた人を発見する大切な役目を負っていますが、合格率2〜3割という厳しい試験をクリアしなければなりません。東日本大震災の直後に福島で生まれたじゃがいもは、岐阜の訓練施設に引き取られ、災害救助犬を目指すことになります。一歳半から始めて、1年に2回の試験に挑み続け、被災地生まれということで注目されたじゃがいもでしたが、10回続けて不合格。ところがラストチャンスともいえた11回目について合格。このニュースは、出身地の飯館村を始め、福島の人たちを大いに励ました。じゃがいもを引き取り、育ててきた著者によるノンフィクションです。(中学年以上向き、1300円+税)



中学校のクラスでは「南部のいなかもん」と言われ、アパートでは父の帰宅を待つだけの日々。そんなラングストーンが、学校帰りに図書館を見つけます。アラバマでも図書館はありましたが、それは白人専用。しかしここでは多くの黒人が利用しています。元々本が好きなラングストーンは、ここで自分と同じ名前の詩人の詩集に出会います。詩の一編一編がラングストーンの心をどんなふうに見えさせていくのかを通して、社会と文化の、時代と人間との関係性について考えずにはいられない物語でした。(高学年以上向き、1500円+税)

『戦場の秘密図書館〜シリアに残された希望〜』

(マイク・トムソン作、小国綾子・訳、文溪堂)

シリアでは2011年にアサド政権への抗議活動が広がり、その拠点の一つがダラヤでした。しかし、翌年、ダラヤは政府軍に包囲されます。そうした中で、爆撃を受けた地区の地下室を利用して、がれきの中から集めた本を収集し、図書館を作った若者たちがいました。この「司書長」を名乗るのは、14歳のアマジャドで、1万4千冊という蔵書数からもわかるように、決してただ本を並べているだけでなく、図書館としてのシステムを備えており、爆撃から救った本も、最大限持ち主と連絡をとって、後で返せるようにしていたのです。著者はイギリスBBC放送のジャーナリストで、現実には2016年にこの図書館は政府軍に発見され、略奪されてしまいましたが、これこそまさに現代の「希望の図書館」だと思わされました。(高学年・中学生以上向き、1500円+税)



『ふゆとみずのまほう こおり』

(片平孝・写真・文、ポプラ社)

著者は以前に『おかしなゆき ふしぎなこおり』という写真絵本を出されていて、僕はそこから何枚かをピックアップして、大学の創作の授業でその写真を使って絵本を作るという授業をしていました。冬の景色は本当に幻想的な世界に誘ってくれます。ただ考えてみると「雪景色」という言葉はあっても「氷景色」という言葉はありません。今回のこの絵本ではその氷の様々な姿が、アップやロングを効果的に使ったアングルで映し出されます。氷は温度によって刻々と姿を変えるわけ



低・中学年向け

『にんげんクラッシャーさんしょう!』

(最上一平・作、有田奈央・絵、新日本出版社)

1年生のいがらし君は登校の途中で何かを見ているりゅうせい君に気づきます。彼が見ていたのは工事現場のクラッシャーで、まるで人の腕のような動きで建物を壊しています。離婚したりゅうせい君のお父さんはクラッシャーのオペレーターをしているようなのです。放課後もクラッシャーを見にきた二人でしたが、次の日に工事は終わってしまいました。ここから二人が考えた「人間クラッシャー」遊びの世界が繰り広げられます。

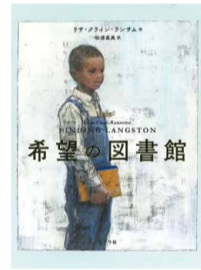


高学年・中学生向け

『希望の図書館』

(リサ・クライン・ランサム作、松浦直美・訳、ポプラ社)

舞台は1940年代後半のシカゴ。この前後多くの黒人が差別から逃れ、仕事を求めて南部から北部に移り住みました。ラングストーン少年もその一人で、母の死を契機にアラバマから父と二人でシカゴにやってきたのです。しかし、



ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト(敬称略)

〈震災寄贈〉12月21日～1月20日

北海道 白田基子▼岩手県 伊藤さおり▼宮城県 高橋ゆみ チバ▼茨城県 木村あゆみ 豊島敏子▼群馬県 荒木洋子▼埼玉県 田原純子 梅田直美 林優子 匿名希望▼千葉県 井上太稀 植松 久間里見 江頭由紀美 平川深悠 植田順子 川口玲子 菱木文子▼東京都 荒川区役所 井上直子 岡崎ゆかり 清水有紀 調布市役所 長谷川徳子 パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) J-MOT 水上奈緒美 東京海上ビジネスサポート(株) 野村麻理子 吉田みどり 近藤淳子 日本基督教団小金井緑町教会 山田こずえ 麻績楓 カトリック成城教会有志 川上洋一 J&J愛をささやく 温品心晴 キヤノンITソリューションズ(株)大阪事務所 福本郷子 水ing(株) 全日本ロータス同友会(株)ルートピア 匿名希望▼神奈川県 カープス栢山&井細田 牧田知与 小澤弘子 緑の郷 円蔵中学校 佐野沙織 牧田知子 匿名希望▼新潟県 長谷川文子▼山梨県 里垣小学校児童会▼岐阜県 岐阜県JAビジネスサポート(株)▼静岡県 島彩子▼愛知県(株)ホットスタッフグループ NNTビジネスソリューションズ(株)東海支店ビジネス営業部 加藤純子 日恵野かおり 三菱電機(株)中部支社 佐々木清子▼滋賀県 大窪よしみ 川崎久江▼京都府 プーランジュリーエトルタ 京都府立嵯峨野高等学校ボランティア委員会▼大阪府 川村早苗 穂和

代 奥田亜弥子▼兵庫県 原田菜穂子 匿名希望▼奈良県 宮崎新嗣 乾憲子▼広島県 森光菜美 江野一志▼香川県 岩川実智代 四国労働金庫 労働組合 中外製薬(株)香川・徳島支店▼福岡県 八津田小読みみきかせグループ〈どっこいしょ〉ことぶき整骨院 匿名希望▼大分県 嶋崎光平▼無記名= 28件

〈一般寄贈〉12月21日～1月20日

北海道 高田雪江 美唄消費者協会 弓場洋子 中野幸恵 山下雅宏▼青森県 深澤香織▼岩手県 川端香子 鈴木建設(株) 瀬川康子▼秋田県 長谷川紅美子 伊藤ひろみ 大関博子 戸嶋祐子▼福島県 アイスター商事代理店金澤和子▼茨城県 森貞和仁 シティーナ神立 近藤由香▼栃木県 菊地一枝 野村美雅▼群馬県 宇敷みゆき 須田節子▼埼玉県 福田和代 細川美津枝 杉本菜 難田谷明子 斉藤昭雄 田口飛翔▼千葉県 黒田晴代 藍場英光 井上太稀 住吉直紀 飛田サチ子 明治牛乳長生販売所▼東京都 飯村茂子 塩野公認会計士事務所 清水裕子 徳持小学校 PTA 平野美穂 貝原富士子 田中美紀 明治安田生命保険相互会社運用サービス部 葛西美沙子 米谷彩杜 斉藤啓子 ジュコス(株)社員一同 女子パウロ会 白取知子 関根久子 田中文子 東京新聞編集局読者部 西尾祐飛 沼尻暢俊 平野美穂 市川佳世子 田中真裕美 メルテック・ビ

ジネス(株) (株)協和ライフサービス 工藤美智子 柴田晴美 タナカダテヒデノリ 東京冷機工業(株) 烏居業品(株) 新島村国民健康保険診療所 野口晴代 長谷部玲子 匿名希望▼神奈川県 大縄みどり 白井英子 東芝エレベータ(株)神奈川支社 井村典明 (株)湘建 白川乃里子 田中宏 東芝プラントシステム(株)経理部・IFRS・J-SOX 対応推進部 吉田真奈美▼新潟県 (株)コンピュータシステム研究所信越営業所 ひまわりクラブ松原義一 五十嵐ヒサ子 地域密着型複合施設わしま 田中美津恵 中島秋子▼福井県 四折直紀 貝吹敦子▼山梨県 鶴間さつき 角南康子▼長野県 笹岡由香 伴恵美子▼岐阜県 渡辺虹太▼静岡県 曾我小学校学童保育所 島中将也 小笠原留美子 ヤマハ発動機ビズパートナー(株) 西岡玲子▼愛知県 奥井久恵 牧真理 (株)中外有志一同 梶原和美 粕谷千枝子 岩村孝子 中園きよみ 匿名希望▼滋賀県 近藤仁美▼京都府 松川紀子 (前時代工房(株)スタジオニクロム 石垣裕樹 大原常晴)▼大阪府 稲垣美智代 上場慶一 大和ハウス工業(株)CS 推進部関西地区お客さまセンター 松本由美子 島本町立第一幼稚園▼兵庫県 今西正樹 谷左官店 福田登三枝 和住良昭 木村君枝▼奈良県 坂本 下山大輔 山中肇 野迫川小学校▼和歌山県 芝崎 西山賀子▼鳥取県 永原千恵 田中英夫▼岡山県 佐野仁美 大塚泰弘▼山口県 木船一宝 福島ゆかり▼香川県 匿名希望▼

愛媛県 河原洋子 東芝ライテック(株)▼福岡県 医療法人南島整形外科 白石多恵子 宮本貞信▼熊本県 森田絹子▼大分県 石堂泰史 上坂美智代 井上義雄 石道泰史▼鹿児島県 関いづみ 山口聡子▼ ゆきえ chan▼無記名= 57件

〈友愛援助申し込み〉1月1日～1月31日

◆岩手県 大野小(洋野町) ◆福島県 福島西高(福島市) ◆茨城県 二の宮小(つくば市) ◆栃木県 旭小(小山市) ◆埼玉県 栄和小(さいたま市桜区) 潮止小(八潮市) ◆千葉県 須和田の丘支援学校(市川市) ◆東京都 旭が丘小(日野市) ◆神奈川県 子安小(横浜市神奈川区) 清泉女学院中高(鎌倉市) 本町中(秦野市) ◆富山県 若葉幼稚園(富山市) 西田地方小(富山市) ◆石川県 松任高(白山市) ◆長野県 永明小(茅野市) 白馬中(白馬村) 吉田中(長野市) ◆静岡県 中野学園オイスカ高(浜松市西区) ◆愛知県 南小(日進市) ◆三重県 美杉中(津市) 上野高(伊賀市) ◆京都府 京都女子中(京都市東山区) ◆兵庫県 有野北中(神戸市北区) 大社中(西宮市) 榎列小(南あわじ市) ◆山口県 萩光塩学院(萩市) ◆香川県 大野小(高松市) ◆福岡県 花尾小(北九州市八幡東区) 柏陵高(福岡市南区) ◆長崎県 大野木場小(南島原市) ◆大分県 豊府小(大分市)